

ケンタッキーブルーグラスおよびメドウフェスクの品種比較成績

【要約】ケンタッキーブルーグラスの「ラトー」はさび病抵抗性を有し、生草および乾物総収量に優れる。メドウフェスクの「コスモポリタン」および「まきばさかえ」の生草および乾物総収量は同程度であり、「ハルサカエ」と比較し多収である。

畜産研究所 酪農研究部

【連絡先】0573-56-2769

【背景・ねらい】

飼料作物は多くの品種が流通しているが、利用する農家が独自に品種の能力を比較検討することは困難である。したがって、岐阜県内での栽培に適した品種を選定するため、岐阜県畜産研究所酪農研究部(以下、当所)において寒地型イネ科永年牧草のケンタッキーブルーグラス、メドウフェスクについて品種の比較検討を行った。

【成果の内容・特徴】

- 1 ケンタッキーブルーグラスの「ラトー」、「サンビーム」、「ニューグレード」の3品種を用いて比較試験を実施。草丈は「サンビーム」と「ラトー」が50~60cmと同程度であり、ニューグレードと比較し高い(表1)。「ラトー」が他の2品種と比べさび病抵抗性に優れており(図1)、令和4および5年度の気象条件下では3番草まで刈り取りが可能。生草および乾物総収量についても、令和5年度の3回刈り取りでは「ラトー」がそれぞれ524.1kg/a、110.9kg/aと他の2品種と比べ多収である。
- 2 メドウフェスクの「コスモポリタン」、「まきばさかえ」、「ハルサカエ」の3品種を用いて比較試験を実施。令和5年度の3回刈り取りでの生草および乾物総収量は「コスモポリタン」がそれぞれ504.5kg/a、107.1kg/aであり、「まきばさかえ」が484.8kg/a、113.6kg/aと、両品種は同程度の収量であり、「ハルサカエ」と比較し多収である(表1)。

【成果の活用・留意点】

- 1 当所の年間平均気温は12℃程度であり、ケンタッキーブルーグラスおよびメドウフェスクの両草種とも最終刈り取り後に枯死した。したがって、同温度帯で栽培を行う場合、毎年播種を実施する必要がある。
- 2 雑草害防除のため、寒地型イネ科牧草の生育適温である15~25℃の時期に播種を行い、適宜除草を実施する必要がある。

【具体的データ】



図 1. ケンタッキーブルーグラスの 1 番草刈取時

ニューグレードおよびサンビームでは一部さび病(葉の淡黄色部)が認められたが、ラトーでは認められなかった。

表 1. 各草種の草丈および収量調査結果

○ケンタッキーブルーグラス

年度	品種名	刈取回数	平均草丈 cm	生草総収量 kg/a	乾物総収量 kg/a
R4	ニューグレード	2	36.7 ^a	125.4 ^a	38.1 ^a
	サンビーム	2	57.9 ^b	148.8 ^a	44.7 ^a
	ラトー	3	58.0 ^b	380.3 ^b	96.3 ^b
R5	ニューグレード	3	35.9 ^a	212.4 ^a	59.3 ^a
	サンビーム	3	52.0 ^b	308.4 ^a	85.7 ^{ab}
	ラトー	3	60.3 ^b	524.1 ^b	110.9 ^b

○メドウフェスク

年度	品種名	刈取回数	平均草丈 cm	生草総収量 kg/a	乾物総収量 kg/a
R4	ハルサカエ	2	78.7 ^a	274.3 ^a	64.6 ^a
	コスモポリタン	2	83.8 ^{ab}	359.1 ^b	83.8 ^b
	まきばさかえ	2	84.7 ^b	316.5 ^{ab}	75.0 ^{ab}
R5	ハルサカエ	3	72.4	397.7	88.3
	コスモポリタン	3	75.5	504.5	107.1
	まきばさかえ	3	77.7	484.8	113.6

同列の同年度間で異符号間に有意差あり (P<0.05)

研究課題名：自給飼料生産・利用拡大推進事業（令和 3～5 年度）

研究担当者：北島有華